

菊池 勇太 氏 YUTA KIKUCHI

合同会社ポルト 代表取締役



企業情報

企業名：合同会社ポルト

所在地：801-0873 福岡県北九州市門司区東門司1-10-6

業種：生活関連サービス業

資本金：150万円

従業員数：5名

活動エリア：福岡県内

取材日(令和5年11月29日)現在

解決を目指す社会課題

雇用の確保、高齢者世帯の支援、子育て支援/働き方支援、リビングシフトへの対応、商店街/繁華街衰退への対応

少子高齢化が進む地域における ロールモデルづくり



2050年には、テクノロジーが非常に発展していて、病気や飢え、生きにくさが克服されているだろう。人はある程度、労働から解放されていると思われる。そこで生まれた暇な時間を怠惰にすごしたり、戦争をしたりといったことに使わずに、文化的・倫理的に豊かな生活のために費いやす、そのような世界になってほしい。

事業の概要

空き物件をリノベーション¹したゲストハウスを運営

菊池氏は、北九州市門司区で生まれ育った。小学4年生の頃、菊池氏は難病を患った。不安でふさぎ込む菊池氏に、母親が「世界には、もっと不幸な子供がいる」と声をかけた。「本当にそうなの？」と思った菊池氏は勉強し、様々な社会課題を知った。大学ではベトナムの貧困地域でフィールドワークを実施した。卒業後は、コンサルティング会社で環境関連の分野を手がけるが、生活者の行動が変わらなければ社会は良くならないと実感し、生活者の行動を捉えるマーケティング会社に転職。その後、自分の活動で社会を良くしたいという思いから起業の準備をしていたが、門司にある建物のオーナーから空き物件活用の相談を受け、2018年7月に合同会社ポルトを起業した。

同社の主な事業は、「宿泊業」、「飲食・物販業」、「メディア事業」、デザイン・制作を行う「クリエイティブ事業」である。

宿泊事業は、前述の空き物件をリノベーションしたゲストハウス「門司港ゲストハウス ポルト」を運営している。この建物は、かつての花街に一軒だけ残った遊郭跡で、文化的な価値と門司の歴史を感じてもらうため、当時の雰囲気を残した設計にしている。門司港の繁華街である門司港レトロから少し離れた立地だが、長期滞在客や常連客が付き、ここへの宿泊をきっかけに門司に移住した人も多いという。

飲食・物販業としては、バナナジュースや人形焼きのような「おじ焼き」、門司港駅の看板グッズ等の製造販売を手がける。いずれも門司の人や物をモチーフにした製品で、地域への関心につなげることを狙っている。メディア事業としては、西日本高速道路株式会社からの委託でポッドキャスト「関門オンエア」を製作してい

る。これは、北九州市と下関市の情報を発信するインターネットラジオで、観光ガイドブックに載っていないような地域のディープな魅力を紹介している。クリエイティブ事業は、デザインや企画の請負である。

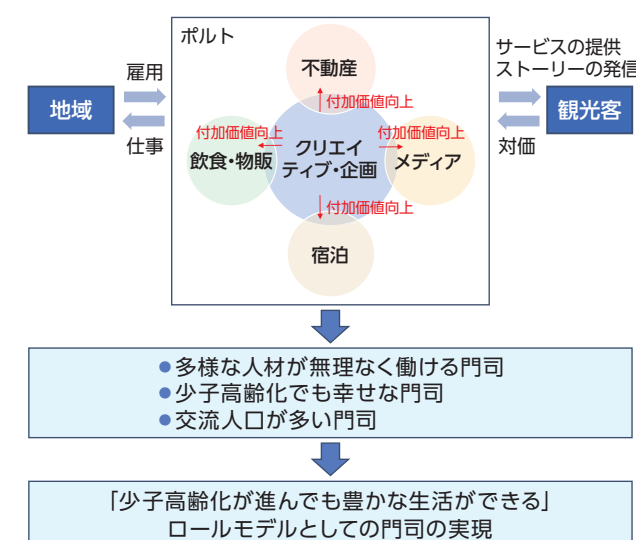
収益の約6割がクリエイティブ事業、約4割が店舗や物販であるが、後者もクリエイティブ事業で培ったデザイン性や企画力で付加価値を向上し、収益性を高めている。



ゲストハウス「ポルト」の外観

¹ 古い建物を新たな使用に耐えようよう修繕、改造すること。(建築学用語辞典)

<図表：ビジネスモデルと社会課題>



社会課題への対応

年齢に関係なく豊かな生活ができる地域に

北九州市は、政令市の中でもっとも少子高齢化が進んでいる。2020年の国勢調査では65歳以上の人口が31.8%にのぼり、2030年には人口の1/3以上が高齢者となる。その中でも、特に少子高齢化が進んでいるのが門司区である。課題先進地である門司でそれを解決するモデルをつくり、他の地域で展開できれば、社会全体を良くできるというのが菊池氏の考えである。

前述のとおり、同社のゲストハウスや物品は、門司の歴史や地域に根付いたものである。同社はこれらの事業を通じて、地域に対しては仕事の提供や雇用の創出を行い、域外からの観光客などには、門司の魅力を発信して門司のファンづくりや交流人口の拡大を進めている。また菊池氏は、地場の不動産開発事業者のアドバイザーとして、まちづくりの企画立案に携わっている。

これらの事業の拡大は、北九州や門司における雇用の創出や関係人口²の増加に貢献し、ひいては少子高齢化が進む門司の地域コミュニティの維持につながる。

² 「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々を指す。



ゲストハウス「ポルト」の内観

今後の展望

ポートフォリオの多角化で経営の基盤を固め、 多様な人材を受け入れる

同社は今後、製造事業や不動産事業に力を入れ、事業ポートフォリオを多角化することで、経営の安定化を目指している。特に不動産事業は、空き家・空き店舗活用コンサルティングだけでなく、町の物件を運用し、固定的な収益を上げ、経営の基盤にすることを検討している。事業の多角化は、雇用の受け皿を広げることにつながる。事業領域が広がれば、当然に必要な人材も多様化するからだ。

「ポルトの事業を通じて、年齢に関係なく誰でも価値

があり、誰かに必要とされていることを証明したい。事業を拡大し、少子高齢化が進んでいる地域でも、豊かで幸せな生活ができることを示す」と菊池氏は語る。

現在、同社には高齢者やシングルマザーなど、多様な人材を雇用している。彼らが無理せずに働ける仕組みづくりを進めることで、様々なスキルを持つ多様な人材をさらに受け入れていく予定だ。彼らの活躍によって門司が活性化し、少子高齢化が進んでも豊かな生活ができるロールモデルづくりを進めていく。